

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

601

母子父子寡婦福祉事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	1	安心して子供を生み育てることのできる環境の整備
施策	1	安心して子供を生み育てることのできる環境の整備
取組方針	3	保護・援助を必要とする子供への支援

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	民生費		
	項	児童福祉費		
	目	児童福祉総務費		
	大事業	児童福祉総務事業（こども家庭課）		
	中事業	母子父子寡婦福祉事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	こども家庭課	松下 昌弘 435-1219
事業実施の根拠法令	母子及び父子並びに寡婦福祉法		関連課			

1 事業内容

事業目的	（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）		全体事業概要		
	ひとり親家庭に対する施策を行い、福祉の充実を図る。		さまざまな理由によりひとり親家庭が増えている中、自立促進を含めたひとり親家庭に対する施策を行い、母子及び父子寡婦世帯の充実を図る。		
事業内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
	・生活支援事業 ・ひとり親家庭情報交換事業	・生活支援事業 ・ひとり親家庭情報交換事業 ・母子家庭等児童を励ます会 開催（2年に1回開催）	・生活支援事業 ・ひとり親家庭情報交換事業	・生活支援事業 ・ひとり親家庭情報交換事業 ・母子家庭等児童を励ます会 開催（2年に1回開催）	・生活支援事業 ・ひとり親家庭情報交換事業

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	246	183	662	679	246	238	643	0	246	0
伸び率（%）	△63.4%	△68.7%	169.1%	271%	△62.8%	△64.9%	161.4%	△100%	△61.7%	0%
人件費	正規職員	3,350	3,590	3,357	5,675	5,719	5,397	5,397	0	0
	正規職員以外	296	296	262	689	499	499	662	0	0
	小計	3,646	3,886	3,619	6,364	6,218	5,896	6,059	0	0
国庫支出金	122	91	122	140	122	122	122	0	122	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0
一般財源（税等）	123	92	539	539	123	116	520	0	124	0
所要人数 （人）	正規職員	0.42	0.45	0.42	0.71	0.71	0.67	0.67	0.00	0.00
	正規職員以外	0.13	0.13	0.11	0.29	0.23	0.23	0.31	0.00	0.00
主な予算内訳	委託料 246千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	延申込者数	世帯	目標値	60	60	60	60	60
			実績値	47	77	40		
			達成度(%)	78.33%	128.33%	66.67%	%	%
	延参加者数	世帯	目標値	40	40	40	40	40
			実績値	31	54	23		
			達成度(%)	77.5%	135%	57.5%	%	%
成果指標	延申込者数	世帯	目標値	60	60	60	60	60
			実績値	47	77	40		
			達成度(%)	78.33%	128.33%	66.67%	%	%
	延参加者数	世帯	目標値	40	40	40	40	40
			実績値	31	54	23		
			達成度(%)	77.5%	135%	57.5%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	ひとり親家庭情報交換事業及び母子家庭等児童を励ます会は、ひとり親家庭の孤立を防ぎ、ひとり親家庭同士の交流をサポートする目的で実施されている事業であり、実績等によりニーズは高く非常に好評である。
見直し・改善内容	開催時期により応募者数にばらつきがあるため、よりニーズの高い時期に開催回数を増やす等の工夫をし、事業の更なる充実を図る。